

会 議 録

件 名	第2回宇治市特別職報酬等審議会
日 時	令和3年10月21日(木) 9:30~11:30
場 所	本庁舎 8階大会議室
出席者	各委員・事務局職員

【概要】

- 1 今後の審議予定について
- 2 審議等
 - (1) 京都府人事委員会勧告について
 - (2) 第6次総合計画の概要等について
 - (3) 答申の方向性について
- 3 その他

【内容】

- 1 今後の審議予定について
審議予定について確認した。
- 2 審議等
以下について事務局より説明を行った。
 - (1) 京都府人事委員会勧告について
令和3年京都府人事委員会の「職員の給与等に関する報告・勧告」の概要
 - (2) 第6次総合計画の概要等について
資料3-1及び資料3-2、資料4について事務局より説明を行った。

(委員) 総合計画策定後の進捗の検証はどのように行うのか。

(事務局) 指標を設定できるものは、その指標に基づき達成状況を検証していくことになる。指標の設定が難しいものは、予算にどのように反映し、事業を行っていくかというところが重要になるが、それをどのように進めていくかは今後の課題であると考えている。

(委員) 前回の計画と比べると、基本構想で子育てに関することが新しく入ったということや未来への投資を明確にされたということが目立っている。計画の基本構想にある土台となる取組では、多様な主体との連携・協働と担い手づくりの推進とあり、地域との対話など様々な方との対話を進めていくというところに着目したら良いのか。

(事務局) まさにそこが市長の今後進めていきたい施策のポイントである。

(委員) 施策としてはどのようなものがあるのか。

(事務局) 産業振興も重点施策に置いている。例えば近鉄小倉駅周辺のまちづくりというものこれまで進んでこなかったが、今後の駅周辺のまちづくりのために駅西側の大型商業施設跡地を市が先行取得した。また、産業立地の関係では、宇治市では若者の流出が課題であるが、若者の働く場を創出し、ものづくりを発展させていくために、事業所や工場のエリアを定めるなどして進めていきたいと考えている。他にも新型コロナウイルス感染症対策として、補正予算を何度か組みながらワクチン接種の推進に努め、全年齢あわせると約70%の方が2回目の接種が終わっている状況にある。

(次頁に続く)

- (委員) 市長が力を入れているところはどこか。
- (事務局) まず、市長は前職が京都府健康福祉部長であったこともあり、新型コロナウイルス感染症対策や、子育て関係について最優先課題と考えており、前回の審議会でご説明した、中宇治地区をモデルエリアに定めて、子育てにやさしいまち実現プロジェクトに取り組んでいるところである。先ほどと重複するが、産業振興についても出来る限り早く効果があらわれるようにするため、市長が率先して国・府との調整に取り組んでいる。
- (委員) 現在の宇治市の人口は20年ほど前と比べると約1万人減少している。全国的に減少傾向にあるが、増加している自治体もある。宇治市も共働き世代に定住していただけるようなまちづくりをしていかないといけない。市長は今後どのような施策をしようとしているのか。
- (事務局) 今後12年間の総合計画を策定するコンセプトのところを現在議論しているところである。現段階では抽象的な表現に留まっているが、今後の予算や事業内容で評価いただくことになると思う。
- (委員) 人口減少について、社会減なのか自然減なのか。
- (事務局) 最新の状況については、後日お示ししたい。過去の数字となるが、平成27年の国勢調査結果によると宇治市の人口が5年前と比べて約5千人減少した。この結果について分析したところ、20代及び30代は大量に都市部へ流出することで減少し、逆に0～5歳の就学前児童については増加していることが分かった。
- (委員) 若い世代の流出を防ぐために働く場所をつくらないと宇治市が廃れていく。将来的に宇治市が存続するために対策を考えているのか。
- (事務局) 人口減少に対応する施策としては、産業立地により宇治市の企業として根付いていただくことを考えている。働く場があるまちにすることで若い世代の流出を抑えることや、近隣市町村へのアクセスを良くすることで、宇治市に住んでもらうきっかけを作るなど、様々なものが考えられる。これらの施策を総合的に実施することで、少しずつでも改善していきたいと思っている。
- (委員) 宇治市では財政健全化の取組により、単年度黒字化を達成し、今後も人件費の抑制を行っていくと言っているが、職員給与の削減という議論だけでなく、職員定数の議論も必要ではないか。前回審議会で議員の報酬額が高いという意見があったが、過去に定数が32人であった時に報酬額を減額するという議論があったが、報酬額はそのままに定数を28人にした経過がある。
- (事務局) 人件費に関しても職員給与の面だけでなく、職員定数がどうあるべきか引き続き検討していかないといけないと思っている。
- (委員) ふるさと納税について、宇治市では納税額はいくらか。
- (事務局) 令和2年度のふるさと納税額は約1億円である。
- (委員) お茶と宇治のまち歴史公園が開園しているが、来園者数はどうなっているのか。
- (事務局) 令和3年8月21日に建物以外の公園部分を先行オープンし、10月1日から全面オープンしたところであるが、8月21日から10月17日までの集計で約1万2千人となっている。
- (委員) 災害の時に一番重要になるのは水だと思うが、水道管の老朽化に対応する予算はあるのか。
- (事務局) 以前から計画的に施設の改修を実施しており、宇治浄水場については耐震化も含めて近いうちに改修が完了する予定である。計画としては、まず供給施設を改修し、次に高台にある配水施設の改修を進めることとしている。市内に張り巡らされている水道管についても順次改修を進めているところであるが、完了までに時間がかかる予定であり、課題であると考えている。
- (委員) 計画的な投資を行っていくために平成28年に水道料金を値上げしたと思うが、その後も投資計画について、投資的経費の見直しなど検証作業は行っているのか。また、インフラ整備について部局を越えた議論はしているのか。
- (事務局) 当時ご指摘いただいた以降は、他部局と連携もしながら見通しを立てて事業を行っている。現在も水道料金も含めた今後の見通しについて議論しているところである。

(次頁に続く)

- (委員) 議員報酬について、前回の会議でも発言したが、議長、副議長、議員の報酬が京都市よりも宇治市の方が高い。なぜこのようになっているか議論しておかないといけない。
- (事務局) 前回配付した資料5に誤りがあるため、訂正させていただきたい。前回配付した資料において、京都市の議員報酬の金額が誤っていた。議論に必要な資料に誤りがあったことについて、事務局としお詫び申し上げる。
- (委員) 宇治市は京都府南部で一番大きい自治体であるので、府内他市と比較しても市長の給与はそれなりに支給すべきだと思う。
- (委員) 松村市長は令和2年12月に就任され、令和3年度予算には意見が十分に反映できなかったと思っており、令和4年度予算がどういう形で出てくるのかは注目したい。今年度は総合計画や宇治市都市計画マスタープランの策定、産業戦略の見直しなど宇治市にとって重要な時期である。市長は就任後、他の審議会にもほとんど出席され、関心を持たれていることが分かり、ありがたいと感じている。業界団体と意見交換会をたくさん開かれており、就任当初からいろんな意見を聴きたいと言われていたことを実践されている。意見交換会での意見をどのように今後予算反映されていくかを見ていきたい。
- (委員) 子育て世帯支援をするにも現状の延長ではなく新たな施策が必要なのではないか。市の成長期であれば現状の延長でも良いが、成熟してしまっているため、大きなプロジェクトが必要であると考えます。
- (事務局) 宇治市内でも成長期にあるエリアと成熟しているエリアが分かれてきていると感じている。そこで、市内全域に均一のことをやるというよりもエリアごとに特化した取組を行うことを考えている。モデル地域を作り、市民の方に分かりやすい施策を行っていくことが大事であると考えている。
- (委員) 現在、副市長が1名体制だが、これは時限的なものか。
- (事務局) 基本的には副市長は2名体制となり、条例上でもそうなっている。現在、市長が熟慮中である。
- (委員) 給与減額については今後も継続するのか。
- (事務局) 一般職の管理職が減額していることを踏まえて行っている措置であるので、今後においてもそういったところを勘案しながら判断していくものと捉えている。
- (委員) 任期内総収入の観点でいうと府内では市長は高いわけではなく、副市長、教育長は高い。それを踏まえて議論しないといけないと思う。おそらく退職手当が影響していると思うが、この辺りの論点を整理するために、府内の市長、副市長、教育長の任期内収入についてまとめた資料を提供して欲しい。
- (事務局) 承知した。
- (委員) 給料は据え置き、期末手当は、人事院勧告に準じた引き下げの意見が多い。
- (事務局) 今日の議論の方向性を踏まえ、次回の審議会で答申案等の内容を議論いただきたい。
- (委員) 人口動向の実態が分かる資料を次回提供いただきたい。
- (事務局) 承知した。

3 その他

次回の日程について確認する。

(審議終了)